

2部

フィールド フィールド
現場から現場へ

1. はじめに

私は、2022年4月に3年次編入で入学し、2024年3月になんとか卒業することができました。振り返って思うことは、“2年間で卒業したい！”という想いはあるものの、意志が強くない私にとっては、「自分との闘い」と「自分との折り合い」の日々でもありました。そして、スクーリングで出会った方や一緒に卒業を目指した仲間が存在が、もがきながらも最後まであきらめない力となり、大きな励みとなり、今があると感じています。

そんな出会いに感謝をして、私の拙い経験談ではありますが、在学生の方々に何かお伝えできるものがあれば幸いです。

2. 自分なりに工夫したこと

入学当初は、コロナ禍で入学オリエンテーションが中止となっており、履修科目をどう選択していくか手探り状態でした。『学習の手引き』を参考に、卒業や資格に必要となりそうな専門必須科目・選択科目A群を中心に、仕事に役立つような科目と自分のモチベーションを高めるために学んでみたい科目とを組み合わせました。

さらに、最初は「なるべく経済的に節約をして卒業を目指そう！」と思っていたので、履修方法は【R】を考えていました。しかし、郵送されてきた教科書を目の前にして、自力で単位取得は難しいと判断し、【SR】で履修していくことにしました。今思えば、先生から直接説明を聞くことができるので理解しやすく自分には合っていたと思うのと、スクーリング

での出会い、先生方の心に響いた言葉、グループワークでの気づき等得るものも多くあり、良かったと感じています。

仙台のスクーリング受講の際は、約1時間の電車通学の時に教科書を読むようにし、授業中はなるべく集中して受けるように心がけました。お昼休みは、仙台会場1階にあるTFUカフェテリア「オリーブ」のランチでお腹と心を満たし、学友とおしゃべりできる時はリフレッシュできる時間でもありました。また、「今日は頑張った！」という日には、帰りにご褒美の仙台土産を1つだけ買ってみたいりました。

やはり難しかったことは、学習やレポート提出を計画的に進めていくことでした。せめて、何が終わっているのかを把握できるように、『学習の手引き』にある“学習計画表”を使用して、スクーリングの日程や申込期限、レポート提出日、科目修了試験日等を確認しながら進めていきました。限られた時間のなかで、まずスクーリングやオンデマンド授業の時間を確保し、レポート提出の締め切りがあるものやスクーリング受講条件の科目を優先するようにしました。計画性に欠ける性格なので、優先順位をつけて、今その時できることをやっていったように思います。

論述式レポートは、『レポート課題集』の“課題”をとりあえず最初に書いておき、“アドバイス”の重要と思うところに線を引いて、ポイントを確認しながら進めました。器用ではないので、レポートがだんだん溜まってしまいましたが、関連する分野ごとや重要そうなものから1つずつ終わらせていきました。レポートは書き終わったら、別の日にもう一度見直してみると、修正箇所がいろいろ見つかります。それでも文章が直しきれなかったり、論じること・相手にわかりやすい文章を書くことの難しさを痛感したり、参考文献の検索が苦手な参考図書を読むのも大変だったり、レポートが再提出になってしまったりと、いろいろと経験しました。

3. 仕事のスキルアップと自分の成長につながる学び

私が福祉心理学科への入学を決めたのは、当時の仕事の関係でカウンセリングについて学んでみたいと考えたからでした。入学して初めてのスクーリングが“福祉心理学”、続いて受講したのがオンデマンド・スクーリングでの“禅のこころ”であり、福祉に携わる人の心構えのような大切なことを教えてもらい、今も心に残っています。

目的であったカウンセリング関係の授業は、仕事のスキルアップを図ることができ、コミュニケーションの取り方も参考になりました。2年目に履修した社会福祉学科の“社会福祉援助技術論A・B”等も、知識だけではない現場の実践に向けた内容で、支援者としてだけでなく、一人の人間として、深く考えさせるものがありました。

個人的には、“人間関係論”や各特講・福祉心理学等の授業も面白く、スクーリングで知り合った方に勧めてもらった“スポーツ心理学”、組織で働く者として「なるほど!」と思うことが多くあった“産業・組織心理学”も学ぶことができて良かったです。なによりも、これらの学びを通して、今後のキャリアを見直したい、ライフサイクルと結びつけて考えていきたいと思えたことは、私にとっては大きな収穫であり、自分の転機となったように思います。

4. おわりに

在学中は、仕事や家事の時間以外の限られたなかで、スクーリングに通うこととオンデマンド・スクーリングの時間を確保するだけで精一杯で、なかなかレポートの提出が進まないといった余裕のない日々でした。時には、スクーリングと娘の運動会が重なって応援に行けなかったこともあり、家族の理解と協力をもらいながらの2年間でした。そのなかで、通信

教育部のスタッフの方々の支えや熱心な授業をしてくださる先生方のおかげで、「学べること」の充実感と心理学の面白さを感じることができ、たくさんの方に感謝しています。そして、価値ある学びを生活や仕事に活かしていきたいし、その経験が自分の糧になり、人間的な成長にもつながると考えています。

最後に、きっと在学生の皆さんもいろいろな状況のなか、時間をやり繰りされ、レポート提出等にもご苦労されているかもしれません。今、「学べること」の貴重な時間が有意義なものになりますよう、そして一歩、一歩、ご自分のペースで歩みを進めながら、目標に向かって頑張っていってください。

